

しんにちは つるおか

No. 101

楽しむからこそスポーツ

みやじま やすこ
宮嶋 泰子 さん

テレビ朝日エグゼクティブアナウンサー。夏冬合わせて17回のオリンピック・パラリンピックを取材した豊富な経験を持ち、スポーツ番組等のディレクター兼リポーターとして活躍。官公庁やスポーツ関連団体の委員等多数歴任。鶴岡市民憲章推進50周年記念式典記念講演会の講師として来鶴。神奈川県出身。



鶴岡には、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団など、スポーツのつながりで何度か来ています。鶴岡は、落ち着いた雰囲気の良い町ですね。市民の皆さんが古くからの日本の良い部分を大切にしている感じがして、民度の高い町という印象です。

私は、肩書きこそアナウンサーですが、ほとんどプロデューサー・ディレクターの仕事をしています。企画をして、交渉して、取材して、編集して、放送するという、一人放送局のようなことをやっています。入社以来スポーツ関係に携わっていますが、取材した選手のことをただ伝えるのではなく「皆さんの生活にも生かせるヒントがあるんですよ」というメッセージも投げ掛けるようにしています。例えば、オリンピック選手の実践しているトレーニングや食事管理の方法、選手の考え方や感覚などは、中学・高校



講演会の様子（11月22日／東京第一ホテル鶴岡）

のスポーツ、子育てや教育、健康管理などにも参考になる部分があると思っています。そういうメッセージも視聴者に伝わって「あの選手はすごいね」ということだけではなく、「あれ面白かったね」「私たちの生活の中でも使えるよね」と言っていたくれるのがすごくうれしいですね。

日本でスポーツといえば、競技スポーツのイメージが強いですね。明治時代にスポーツが入ってきて、前に做えとか、右に做えとか、どちらかという軍隊的な形で根付いてきました。鉄棒でも跳び箱でも、できたかできないかで計られていく中で、スポーツ嫌いになってしまった方も多いはずですが、スポーツはみんなが楽しんでやることに意義がある。2020年には東京オリンピックが開催されます。誰もがオリンピック選手になれる訳ではないのですが、人生を豊かにしてくれるものの一つとして、手軽にできるスポーツを生活の中に取り入れて、楽しんでいただけたらいいなと思っています。

下水道工事で掘削した道路を復旧する工程として、初年度に工事後の道路沈下を考慮した舗装の復旧工事を実施し、次年度に本復旧工事を実施します。

ご質問の道路は、現在、仮復旧の舗装が完了した状態です。市では本復旧工事までの間、定期的に現地確認を行い、傷んだ箇所は補修するなど安全確保に努めますが、お気付きのことがありますたら上下水道部下水道課 ☎25・5860 へお問い合わせください。

A 地盤安定の後、舗装の本復旧工事を実施します

通勤途中に下水道工事を終えた道路があります。そこを通るたび、車がかたがたと揺れてとても気になります。

Q 下水道工事で掘削した道路の舗装について

声

voice

市への意見や質問、広報を読んだ感想などをお寄せください。
◎送り先 本所総務課
☎25 - 2111内線316

鶴岡が誇るものゝ技

MADE in TSURUOKA

鶴岡発の優れた技術やこだわりの逸品。その魅力や今後の展望を紹介します。

第6回 しな織 ～伝統産業を未来につなぐために～

しな織は温海地域関川地区と新潟県村上市山北地域に伝わる伝統産業です。しなの木の皮を原料とし、1年がかりの作業を経て完成するこの織物は、ざっくりとした手触りと落ち着きのある風合いが特徴です。平安時代の文献『延喜式』にも登場し、衣類や穀物を入れる袋、酒・豆腐等をこす袋、敷布など生活用品として長く使用されてきました。しかし、昭和40年代以降、安価な化学繊維が普及するにつれ、しな織の需要は徐々に減少。危機感を抱いた関川地区の人たちは、自分たちの伝統産業を地域活性化につなげる取り組みを始めます。

昭和60年に販売拠点となる、しな織センターを地区内に整備します。平成元年に地区全戸を組合員とする関川しな織協同組合を設立し、製品開発を行う加工グループも同時に組織します。これによって、組合を中心とするしな織作業の共同化、加工グループでの製品化、センターでの販売と地区を挙げた分業形態が出来上がります。



〈全国古代織産地連絡会会長も務める五十嵐さん〉

■問合せ／温海庁舎産業課 ☎43 - 4617

「組合設立が、しな織という伝統産業に活動の幅を持たせました」と同組合長の五十嵐正さんは当時を振り返ります。しな織体験ツアー等の体験型観光事業や首都圏での販売促進、関川しな織まつりの開催など、しな織を普及するため様々な事業を展開。平成17年には「羽越しな布」として国の伝統的工芸品に指定。伝統的原材料・技術・技法で作られる工芸品として、国内外から注目を浴びるようになりました。現在は、帽子やバッグ、帯、のれん、名刺入れなど服飾品や小物を中心に約60種類が製品化され、この自然素材独特の魅力を持つしな織の製品を求めようと、年間約6千人がセンターに訪れています。

同組合では、しな織を伝統産業として将来につないでいくため、原布の品質を向上させて伝統的工芸品としての製品価値を高めるほか、デザイン性の高い商品を開発するための加工技術の習得、ブランドとの提携等に取り組み、需要開拓を進める計画です。一方、従事者の減少と高齢化は今後も続くことが予測されることから、後継者対策を最大の課題に位置付け、現在12期目となる研修生制度の充実や関川地区以外の人もしな織に携わることができるような仕組みを検討しています。「しな織は世界に向けて発信できる財産で、関川に住む人が大切にしているものです。20年、30年先のことを心配するよりも、まず今できることに一所懸命取り組みたい」と話す五十嵐さん。伝統産業・しな織を守り継ぐことは、地域コミュニティの維持にも大きな役割を果たしています。

■仮復旧工事はなぜ必要か

下水道工事は事前に市と道路管理者で協議を行い実施します。まず、機械等を用いて道路路面の切断や地面の掘削をし、下水道管を地中に埋設します。



その後、埋め戻した土を機械で踏み固めますが、土の中の水分が抜けるまでの間、地盤は不安定な状態のままです。このため、仮復旧の舗装工事を実施し、自動車等の通行などで地盤を固めて安定させます。これは、道路を着工前と同じ状態に復旧するために必要不可欠なものです。

一定の期間が経過した後、本復旧工事を実施し、道路の舗装が完成します。

■工事期間中のご協力を

下水道工事期間中は、通行規制を行うなどご迷惑をお掛けしますが、より良い生活環境を作るため、ご理解とご協力をお願いします。

〈上下水道部下水道課〉